

産産洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・産産洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

第141号 2015.12.1.
 毎月1回発行 産産洞診療所 松井英介



核被害に苦しむ先住民

松井英介

広島で、とても人懐っこい人たちと出会いました。初対面なのにすぐに打ち解けて話ことができました。11月21日(土)~23日(月、勤労感謝の日)広島国際会議場で開かれた世界核被害者フォーラムでのことです。

そのひとりがベトタッチさん。色鮮やかな毛糸のチョッキ。合衆国ニューメキシコ州に一万年以上住み続けてきた、アコマ・プエブロといわれる先住民です。この地でウランを掘り出した核産業は、彼らの聖地の土・水・空気を汚染し健康を蝕んできました。それだけではなく彼らの精神世界と伝統文化を壊してきたのです。常に彼らの闘いの先頭にあつたであろう横断幕は、会場でひときわ輝いていました(写真)。

もうひとり、インドから来たアシッシさん。26歳の若者です。ジャデゴダの先住民。彼の故郷ジャデゴダでも核産業はウランを掘り出したので、インドにある七つのウラン鉱山のひとつです。人びとは核の影響によるがんや先天障害で苦しめられてきたのです。彼の祖父母も肺がんで亡くなりました。子どものころこの地を訪れたフォトジャーナリストのカメラに魅せられた彼は、身近な人びとを撮るようになりました。彼のフォトエッセイ「核の欲に溺れるジャデゴダ」は、2013年リオデジャネイロで開かれた第3回ウラン映画祭で上映されました。写真は広島のフォーラム会場で展示されました。彼にしか撮れない、深刻な病気を背負った人びとの記録は、参加者の眼を惹きつけていました。

海外9カ国から55人、国内から延べ900人が参加しましたが、お二人は、一番印象的な方がたでした。このフォーラムの事務局長を務めた森瀧春子さんは、世界各地の核被害者と交流を深めてきましたが、彼らをぜひ広島へ迎えたいと、苦労したそうです。

12月10日安倍首相は、原発を売り込みに、訪印します。これを阻止する日本各地の抗議行動に参加するため、彼らは大阪から東京へと移動しました。

最終日に採択された広島宣言は、今回のフォーラムを締めくくるにふさわしい、画期的なものでした。以下にその一部を紹介します。全文をぜひ次のサイトでお読みください。

<http://www.fwrs.info/>

「われわれは、核被害者を以下のように定義する。すなわち、狭義では、原爆の被爆者、核実験被害者、核の軍事利用と産業利用の別を問わず、ウランの採掘、精錬、核の開発・利用・廃棄の全過程で生じた放射線被曝と放射能汚染による被害者すべてを含む。また、広義では、核時代を終わらせない限り人類はいつでも核被害者=ヒパクシャになりうることを認識して、核と人類は共存できないことをあらためて確認した」。(つづく)